くにみ

【第32号】
昭和35年5月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

消防団春季点検

火災の絶滅を期す

功労者など表彰

国見町消防団恒例の春季点検は、若葉かおる憲法記念日の五月三日、藤田小学校で盛大に行われた。

まず午前九時より藤田大通りで閲団式、ついで校庭で通常点検、規律訓練、ポンプ操法、分列行進などきびきびと実施され、次に町長の講評、団長の訓示、来賓の祝辞、表彰状の伝達、授与、感謝状の贈呈、受賞者の答辞、新任佐久間助役の閲式の辞などあり、次いで新しく購入された可搬式ガソリンポンプの披露水勢試験があって終了した。

尚公民館ではこの模様を八ミリ映画におさめたので近く各部落を巡回、披露する予定である。

受賞者並に感謝状贈呈者次の通り。

○表彰状伝達

県知事表彰永年勤続

第三分団副分団長高橋勇記

県消防協会長表彰

第二分団第三部

第一分団長　菅野　賛郎

第五分団長　阿部　富衛

第四分団部長　吉田光助

伊達支部長表彰

第三分団副部長高梨正広

第五分団副部長斎藤　清

精勤章

第二分団副部長佐藤　実

第四分団副部長鈴木幸雄

第一分団班長　鴨田忠二

第二分団班長　阿部重男

第五分団班長　武田貞雄

第一分団団員　佐藤俊雄

第三分団団員　津田吉治

第五分団団員　実沢三之助

第五分団団員　村上誠一

○感謝状伝達

前第一分団長　斎藤一郎

○団長表彰

第一分団第一部黒田芳雄

第二部山田豊吉

第二分団第一部小紫　実

第二部羽根善五

第三分団第一部吉田平次郎

第二部村上次男

第三部寺島　勇

第四分団第一部玉手繁雄

第二部斎藤政治

第五分団第一部高橋隆雄

第二部遠藤昭孝

第三部松浦周吉

石母田吉田芳信

○一般消防協力者及団体表彰

大町自警団

小坂少年防火班

川内子供会

大木戸部落少年火防団

就任の挨拶

国見町助役　佐久間　栄

私、このたびはからずも当町の助役に任命され、皆様の公僕として働かせていただくことになりました。県職員として二十余年間、大過なく職責を全うし得ましたことは、郷党の皆様のご支援の賜と心から感謝申上げる次第でございます。

町村行政が地方自治の基盤であって、その消長が延いては国政の進展に影響をおよぼすものであることを思うとき、所掌する仕事の重要さを今更痛感するものでございます。

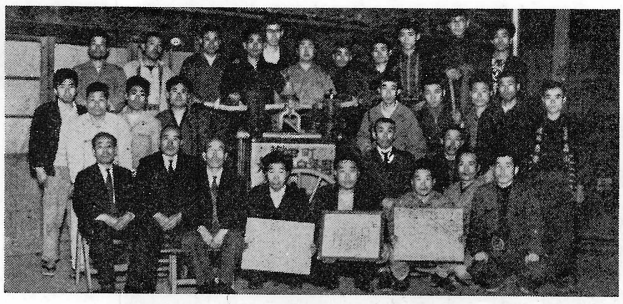
地方自治法が施行されから十三年、その間本町においては自治組織の適正化のため理想的な町村合併が完成され、幾多の障害を克服し、民主的な自治確立に或は町民の福祉のために積極的な足跡を示しつつ、着実に進展の一途をたどりつつあることは、誠にご同慶にたえません。町村行政の理想は、今更申上げるまでもなく地域の人人の福祉を増進し、あかるく住みよい社会を建設することであろうと思います。当町における当面途には、行財政の面において幾多の困難が横たわっているものと思われますが、一歩一歩この理想に向かって努力をつづけて参りたいと存じます。

私、もとより浅学非才ではございますが、過去の経験を生かし、微力ながら町民の皆様のご期待に添うよう決意を新たにするものでございます。

皆様のご声援とご鞭撻を願いいたしましてご挨拶といたします。

腕用ポンプでいつも〝さきがけ〟

…大町南自警団の横顔…



大町南部落は常に風上の位置にあり、一朝火災が発生すれば、駅前全町に延焼することが必定にして、これを未然に防ぎ、且つ不幸にして出火した場合はこれを最少限度に防止するの必要ありと、今から十一年前の昭和二十四年五月、部落の長老武田彦吉氏をはじめ、故本田末松、小西長三郎、大勝藤繁、菊地勝、小西正吉、本間平兵衛の各氏等相計り、自警団の結成を提唱した。当時廃品同様に放置されていた旧式腕用ポンプを改修し、これを唯一の手がかりとして大町南自警団が結成された。その後諸経費は一切他に求むることなく、行商、映画会等による利益金や団員の血の出るような醵出金でまかない、常時の警火防犯活動に努め、町最も信用できる結果が生まれるよう、町民各位の協力を望んでいる。尚今年行なわれる各種統計調査は次の通りである。

記

一、一九六〇年世界農林業センサス（調査済）の集計

二、厚生行政基礎調査（四月十五日厚生省）森江野第三部落が抽出調査

三、商業統計調査「六月一日通産省」二年毎に行なう

四、事業統計調査（六月一日総理府統計局）三年毎に行なう

五、国勢調査（十月一日総理府統計局）十年毎に行う大規模な調査

六、工業統計調査（十二月三十一日通産省）毎年行なう

七、福島県農業基本調査（二月一日福島県）

今年は統計の当り年

昭和三十五年度は、三十年に一度の統計の当り年ともいわれ、十年毎に行なう大規模な国勢調査をはじめ、いろいろ重要な統計調査を実施されることになっている。統計は、世の中のありさま、ほんとうのすがた、うごきをつかんで適正な施策を立てる基とするもので、これが正しく行われるかどうかによって国や県の考えややり方も変わるので、最も信用できる結果が生まれるよう、町民各位の協力を望んでいる。尚今年行なわれる各種統計調査は次の通りである。

記

議会だより

四月臨時町議会

町議会臨時会が開かれ、会期一日、議案次の通り

日程第一　助役選任に同意を求めるの件

日程第二　専決処分につき承認を求めるの件

日程第三　国見町課設置条例の一部改正の件

綜合開発調査室を廃止するための一部改正で原案通り可決

（助役選任に同意を求める件など審議）

四月十八日国見町長八巻正雄氏は次のように語っている。

「わが自警団は決して第一線の戦斗部隊ではなくあくまでも銃後の守りを引受ける留守隊である。したがって町消防団を無視するような出しゃばり的な行動は厳につつしみ、縁の下の力持的役割を自覚し、町消防団の女房役として団員一同誓いあっています」

尚この自警団ではこれまでも昭和二十八年四月と三十三年四月の二回県消防協会伊達支部長より表彰をうけている。

団員名次の通り

団長　八巻正雄

副団長　根本政治

第一班班長　山崎清次

副班長本田末治

阿曾　茂　野村義吉

本間平明　和泉春吉

後藤良夫　富田孝輔

菅野義一

第二班班長後藤松雄

副班長八巻惣一

古川忠一　山口理夫

小西常夫　渡辺勝助

佐藤一郎　村山友司

第三班班長後藤治平

副班長菊地　清

石井　安　由井順郎

高橋　昇　中村昭次郎

舟山忠利　古川清重

顧問大勝藤繁　菊地　勝

小西正吉　小西長三郎

由井寛三

【写真】記念撮影

町民に感謝されている。これについて団長八巻正雄氏は次のように語っている。

「わが自警団は決して第一線の戦斗部隊ではなくあくまでも銃後の守りを引受ける留守隊である。したがって町消防団を無視するような出しゃばり的な行動は厳につつしみ、縁の下の力持的役割を自覚し、町消防団の女房役として団員一同誓いあっています」

尚この自警団ではこれまでも昭和二十八年四月と三十三年四月の二回県消防協会伊達支部長より表彰をうけている。

団員名次の通り

団長　八巻正雄

副団長　根本政治

第一班班長　山崎清次

副班長本田末治

阿曾　茂　野村義吉

本間平明　和泉春吉

後藤良夫　富田孝輔

菅野義一

第二班班長後藤松雄

副班長八巻惣一

古川忠一　山口理夫

小西常夫　渡辺勝助

佐藤一郎　村山友司

第三班班長後藤治平

副班長菊地　清

石井　安　由井順郎

高橋　昇　中村昭次郎

舟山忠利　古川清重

顧問大勝藤繁　菊地　勝

小西正吉　小西長三郎

由井寛三

【写真】記念撮影

時間勵行など申合せる

国見町部落会長会総会

国見町連営の第一線にはたらく部落会長の本年度総会は、本月七日午後一時より役場会議室で開かれた。まず会長、町長の挨拶の後役員改選にうつる。役員は、前例によって各地三名（藤田は四名）の評議員によって選考され、会長に佐藤豊吉（泉田中）副会長に大勝藤繁（大町南）会計に遠藤喜平（山根）の各氏決定、新役員の挨拶の後議事に入る。特に、お互に忙がしいからだであるから時間を確守することを申合せ、本会の会合はもちろん、部落などの会合にも卒先実行することを確約したのは近頃の大傑作で、本町の新生活運動に一大新風を吹きこむものと大いに期待される。

元来、部落会長は、法的なら

ずしも責任者であり、実力者である。従って社会教育についても、その企画運営の鍵をにぎる一大教育実際家としての地位は高く評価されている。

当日時間勵行されたことは無理のない時刻を考えること、たとえば、午後の会合の場合は、夏なら三時、冬なら二時にするというように。

2、司会者は出席の多少にかかわらず、定刻に開会し、閉会する。遅参者には閉会後説明する。

3、通知書には開会時刻と共に閉会時刻も明記し、これを実行する。

4、出席簿を作り、時間を守ったか否かをはっきり記録しておく。（定時勵行者は○、不勵行者は△、無断欠席者は×、届出欠席者は□など）

5、根気負けしないで実行すること。

上特に要望されたことは

1、開会は無理のない時刻を考えること、たとえば、午後の会合の場合は、夏なら三時、冬なら二時にするというように。

2、司会者は出席の多少にかかわらず、定刻に開会し、閉会する。遅参者には閉会後説明する。

3、通知書には開会時刻と共に閉会時刻も明記し、これを実行する。

4、出席簿を作り、時間を守ったか否かをはっきり記録しておく。（定時勵行者は○、不勵行者は△、無断欠席者は×、届出欠席者は□など）

5、根気負けしないで実行すること。

らづけこそ少ないが、町行政の補助役としてあらゆる事務の連絡執行に当ると共に、部落民を指導し且つその意向を代表し、また各種団体の連絡調整を図るなど、地域社会の総まとめ役としてすこぶる重要な使命をもつ、いわば部落内における立法、行政の最高責任者であり、実力者である。従って社会教育についても、その企画運営の鍵をにぎる一大教育実際家としての地位は高く評価されている。

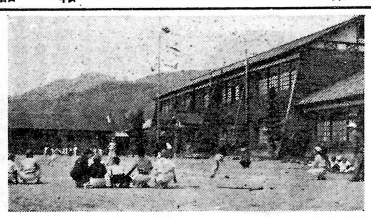
部落会一覧

部落会名	世帯数	部落会長名
大町南	八〇	大勝　藤繁
大町北	八七	稲村彦三郎
本町	八八	佐藤　徳一
駅前	八四	谷津　藤治
錦町	七八	秦　作蔵
宮町北	一〇八	奥山福太郎
宮町南	九四	倉田　真吾
鵜町	四〇	武田　徳治
東町	一六	中野　忠治
石母田東	二七	阿部　重一
石母田表	二二	佐藤　久造
石母田北	二八	宍戸　巳吉
石母田西	三三	斎藤邦重郎
石母田本	三二	菊地　正男
石母田原	四三	吉田　五郎
山崎北	六七	吉田　幸平
山崎南	六八	
小計	九五〇	
板橋	五五	野村　正治
前田	四〇	安藤　仙助
太田川	四〇	佐藤桂次郎
小坂	五九	鈴木　貞助
鳥取	五四	遠藤　正一
内谷西	三〇	菅野　富蔵
内谷東	五〇	菅野　正明
泉田上	三七	佐藤　栄
泉田中	五〇	佐藤　豊吉
泉田下	三六	紺野　忠蔵
小計	四五五	
第一	一〇	谷津　兵吉
第二	六一	佐久間理吉
第三	三六	武田新右工門
第四	四三	吉田　嘉蔵
第五	二三	佐藤亀太郎
第六	三〇	引地　芳男
第七	四〇	佐野甚兵工
第八	五四	佐野　謙
第九	五八	徳江　喜一
第一〇	二一	菊地　亀七
第一一	二一	高橋　勇記
第一二	五一	佐久間正寛
小計	四五四	
貝田	一二	斎藤　与市
光明寺	六九	佐野　久吉
高城	五九	佐藤　一
大木戸	六九	松浦繁一郎
山根	五六	遠藤　喜平
小計	三七五	
原町	二八	小林　次男
築館	一五	松浦　健治
川内	七〇	岩城　文弥
並柳	二五	吉見　金治
中部	三五	玉手　佐藤
北部	一九二	平治
小計	六四	
総計	二四二六	四九

◎健康第一……農繁期の健康管理（栄養と衛生）につとめましょう

◎館報の配布をすみやかに……本館では毎月十四日に部落長さんにお届けします

子どもの日をどう見るか？



もちろん「子どもの日」は子どもを遊ばせ、子どもといっしょに遊ぶだけのものではない。われわれおとなが、子どもについて考え、子どもの福祉増進の方法を研究し、企画を立てることをこの日から始めることにしたらどうか。子どもの問題というと、たちまち非行少年が出てくる、いかにして少年少女の不良化を防止するかというより他に青少年問題はないかと思われるほどである。

わるくなっていない、普通の子どもたちのことをもっと考えてよい筈である。

ところで、わが国見町の実態はどうであったか、ちょっとダイヤルを廻してみよう。

親と子がつれだってたのしく遊ぶ日が子どもの日、これが家庭の「子どもの日」観であり、「せめて子どもの日ぐらいは子どもといっしょに遊んでやりたい」というのが、世の多くの忙しい母の悲願でさえある。

しかし世の中には、子どもの日などと吹く風かという向きもある。五月五日は学校が休みだからと子どもにるすいをさせて温泉行きをくわだてる婦人会があるかぎり、「母の日」に衛生掃除をさせられても文句はいえない。

◎母子寮では母子ピクニック

青年研修所でゆっくり温泉気分

藤田母子寮には現在二十の母子世帯が入っており、三十余名のこどもをかかえて生活と闘っている。平常は日中はほとんど親子はなれ〳〵のくらしをしている。そこでせめて年に一度の「子どもの日」だけもと、母子づれのピクニックをした。場所は青年研修所、風呂をわかして温泉気分にひたり、手作りのおでんやかしわもちに舌つづみをうち、公民館の映画などで一日を楽しくくらして帰った。最低の経費で最上のこどもの日であったとみんなよろこんでいる。

◎大町南では子ども招待

大町南青少年補導委員会（委員九名）では七十四名の小中学生めいめいに招待状を出し、青年研修所で映画会をやり（母子寮と合流）あやめだんごやジュースの接待をした。この経費は部落会の助成金と補導委員の寄附であり、補導委員は総出でこどもの接待に当った。

◎水門、荒沢（山崎）では親子映画会

こどもたちが毎晩夜警をやってくれた慰労をかね、午後七時から高橋さだみさん宅で親子映画会をする。親子そろってあやめだんごやキャラメルをほおばりながら「黄金のりんご」「五ひきの子ざる」「野口英世の少年時代」などをみて大よろこび。尚この経費は部落内二十四戸の会費によるもの。

◎小坂、大木戸校では四日に小運動会

小坂小学校では高学年球技低学年小遠足を実施する。大木戸小学校では高学年は新国道で持久走大会、低学年は球技大会を実施。

【写真】小坂の球技

◎商工会では相撲や剣道大会

商工会ではことしはじめて農業市を開いたが、その行事の一つとして少年相撲と少年剣道の大会を実施した。

人生学校

「デクノ坊」の私記

春日　佑幸

宮沢賢治はデクノ坊といわれてもいつもしずかにわらっていた人である。

それでいながらも「オレハエラインダゾ」といばっている人々とはくらべものにならない大きな仕事をして今も人の世の中に明るい光を送っています。

この崇高な賢治の人がらをしみじみと回想するために「雨ニモマケズ」の詩をわざと文語にかいてみました。

◎雨ニモマケズ

（文語旧かな）

雨風の　中ものかは
つもる雪、夏の暑さに
まけずして生くる命の
強きをそ　もちてありたき
むさぼりもいかりも忘れ
愚痴ゆゑの迷ひをのぞき
春風の　わたるがごとき
ほほゑみをいつもおもてに
わづかなるかてに生くとも
いとなみの力　足りなば
おのが身のことはおもはで
もろ人の　友にあらむ
広野原　松のこかげの
かやぶきの小屋にすみつつ
雨つゆを　しのぐばかりぞ
何かせむ　高きいらかは
東には　病む子をみとり
南には　老いをいたはり
なべて世の弱きをたすけ
争は　やめよといさめ
田畑うつ　人の身おもひ
ひでりには涙をながし
夏さむき　田のあぜみちを
おろおろとめぐりありけば
路のべの　小石にも似て
富も名も　しらずありとも
平和なる　国つくるよりほかにわがねがふことなし

みんなのねがいで公民館

泉田下部落には、これまで集会所がないため、何かにつけて不都合であったが、こんどりっぱな公民館ができて部落民をよろこばせている。

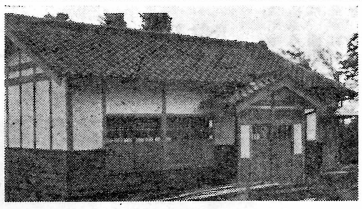
このきっかけとなったのは、開墾適地として処分された共有林の代金六〇万円で、はじめはみんなで分配しようという意見がつよかったが、だん話しあっているうちに、「先祖からゆずられた共有財産を個人に分けてしまっては相すまない、いま、みんながほしがっている公民館として これを子孫に残すのが最も賢明な処分方法ではないか」と思いなおし、満場一致で四十二坪の敷地に二十一坪の公民館を建て近く落成式を挙げることになっている。

部落長紺野忠蔵氏は完成間近かい公民館を見廻わしながら次のように語った。

「三十余名の部落民一致したおかげでこんなりっぱな公民館ができ、こんなうれしいことはない。部落の成人たちや青年婦人たちの社会教育にもうんと活用しようと一同張切っています」

又部落婦人会の黒田さんは「永年ののぞみがかない、これでやっと人の前にも出られます。ここでうんと勉強して、これまでおくれた分をとりかえしたいと思います」

【写真】完成近い公民館



伊達管内青年研修講座

昨年県教委伊達出張所、伊達管内地教委連絡協議会、伊達郡連青三者共催で行われた管内青年研修講座は、去る三月終了し、四月二十三日改めて昭和三十五年度分が開設された。そしてその第二回目の講座が本月十三日、当町青年研修所で開かれ、福島市立第三小学校長沼崎忠蔵氏の人生問題「青年と希望」について講演があり、午後は映画学習があった。出席者は各小学校の学区単位に男女各一名づつの七十四名、当町よりの愛講生次の通り。

○村木一郎、高木紀代子、高橋昭一、後藤喜美子、吉田春子、佐久間利道、遠藤剛、谷津チイ、木村辰雄、○佐藤尚（○は運営委員）

高令者に「ざぶとん」贈る

（天皇誕生日の住き日に）

森江野婦人会（会長佐久間いちさん）では、何よりもまずとしよりを大切にという心から、あらゆる事業にさきがけて、敬老会を開いた。四月二十九日天皇誕生日、七十才以上の高令者一一六名（出席者七五名）を招待し、会員のまごころこめたごちそうやおもしろい余興で、一日を楽しく慰めた。特にこの会に錦上花を添えたものとして、八巻綿店（徳江）から八十才以上の高令者にりっぱなざぶとんが贈られたことである。これは継続事業として一昨年から行われているもので、初年度二〇人、昨年は一〇人で、今年は新たに六人とこれまで合計三六人の高令者に贈られたわけ、同婦人会では同店に対し記念品を添えて感謝状を贈呈した。

【写真】はざぶとんを贈られた高令者たち

「心の晴着」で

…結合改善の話合い…

四月の巡回映画は、連合婦人会から熱烈な希望もあったので、「北医」「エルモ」の二台をつかい、技術者を総動員して全部落に亘りくまなく巡回する事にした。

フイルムは

1、かもとりごんべえ　一巻
2、海を渡る鉄道　二巻
3、二宮尊徳の少年時代　五巻
4、心の晴着　四巻

日程は十六日から三十日まで毎晩二会場同時上映で、特に「心の晴着」について結婚簡素化と家族計画の話合いをすることにした。流感にかかった記者は、前半は心ならずも欠席したが、後半は各会場を巡って町民の声を直接きくことができた。結婚適令期の子女をもつ親たちとして、ほとんどみな同じ悩みとねがいをもっていることがうかがわれた。そしてこれほど多数の人人が共通した悩みとのぞみをもっていながら、いつまでたってもこれを解決できないのはなぜだろうか。それは、「かもとりごんべえ」のマンガがよく教えている。一羽一羽のかもは力がよわく、毎日ごんべえにとられてしまう、しかし、おおぜい力を合せれば、ごんべえをこらしめてかもとりを断念させることができる。永年の慣習を改めたり時代の流れをくいとめたりすることは決してなまやさしいことではない。だからといってこの問題をこのままにしてはおけない、すみやかに改善したいというのがみんなのねがいであるならば、みんなの力を結集したら、みんなでやったらどうだろう。かもでさえ共同の力で自分たちの生活を守り、自分たちの幸福をかちとっている。まして万物の長といわれる人間たちが共同できないはずがない。

（珠玉のような皆さんの声を本号にのせる予定であったが紙面の都合で次号にゆずります）

わが子の兄弟けんかをどうさばいているか

修了生も参加する森江野夫妻学級

先月九日開講式を行なった森江野夫妻学級は級長その他の役員もきまり、年間の学習計画も第三回を迎え、「わが子の兄弟けんかをどうさばいているか」の問題について熱心に勉強した。これには生徒全夫妻の外に第一期修了生から、佐藤新七、石川暢男、佐藤直哉、村上太一、鈴木彦衛の各氏夫妻の参加もあった。

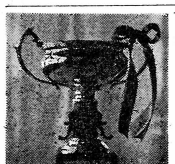
尚生徒名次の通り

（　）内は係名

宍戸　安次、芳　子（厚生）
遠藤　貞次、ウ　メ（会計）
吉田　三男、シ　グ（記録）
佐藤　義正、チ　ヨ（厚生）
斎藤千代太、トヨノ（会計）
太田　久吉、セツ子（記録）
徳江宗兵衛、トミノ（会計）
小野吉四郎、悦　子（級長）
大波　治男、登　美（厚生）
村上　公月、英　子（厚生）
佐野　政治、イ　ク（記録）
村上　正義、ヒサヨ（会計）
実沢　正美、トキ（会計）
村上　正夫、ムメ（記録）
村上　幸吉、マサ（厚生）

院長杯争奪親善野球大会

5月22日
於県北中学校



公立藤田綜合病院では組合三町の親睦を深めるための一助として、招待チームによる野球大会を開くことになり、その第一回が本月二十二日、県北中学校グラウンドで行われる。この大会に招待されるのは、桑折・梁川両町より各二チームと地元国見町より四チームの計八チームで、優勝チームには尺余の大カップに副賞、準優勝並に出場各チームに対してもそれぞれ多数の賞品記念品が贈られることになっている。尚この大会に招待されるチームは、接例がすぐれているばかりでなく、特に社会人としての品位が高く、且つ模範的な勤労者のグループでなければならぬことになっている。

菊地惣兵衛、サ　ワ（厚生）
菊地　金七、昌子（副級長）
菊地　唯七、コ　ク（会計）
佐藤　倉治、セ　イ（記録）
小川　恵見、麻　子（記録）

国民体育デーをめぐる

○少年相撲大会　五月五日観月台相撲場で国見町商工会
○全相撲クラブ主催　五月五日観月台公園で、商工会、剣友会主催
○ソフトボール大会　五月月八日森江野小校庭で、同青年団主催
○町民野球大会　五月十五日県北中グラウンドで、野球連盟主催
○招待三町親善野球大会　五月二十二日県北中で、公立藤田綜合病院主催
○モーターサイクリング　五月十九・二十日、二本松、大滝根鐘乳洞、夏井川渓谷湯本（泊り）浜街道、浪江川俣、月館、保原、藤田、国見町オートバイ愛好会主催

編集後記

◎定休日設定して早や一年まことに好評です。次は農家にもお願いします。
○六月十日は「時」の記念日です。ことしから国見時間は定時励行の別名とご承知願います。
○青年研修所大繁昌です。ほんとに町民の研修所です。
○毎日を「子どもの日」「母の日」「としよりの日」といたしましょう。
○何十年間無火災の部落を表彰してはいかがです。